



慈泉
武
和歌集

中川
武夫
編

慈泉
武
和歌集

中川
武夫
編



はじめに

本書は、慈泉 武の処女和歌集である。流体力学者としての一途な研究活動の合間に、散歩、休息、サッカー、日常の刹那に心に浮かんだ些細な事柄を素直な心で詠んだものである。もとより、他人に見せる意図はなく、つれづれの慰言葉遊びから生じたささやかな果実に過ぎない。

平成3年（2021）年2月9日 白山寓居にて 慈泉 武

樂しみは 皆でそろって 睦まじく
芋煮いもにむしやむしや 食べるひととき

家紋で無く 行いこそが

それぞれを

いやしくなりも 聖ともなす

果てしなき 大海原に 漕ぎ出して
見知らぬ海を 今日も旅ゆく

白露あしたの 消けぬべき恋は 醒ひめざらむ

朝あしたにまたも 置くこともがな

振り向けば しらやまの肌
餅の肌
夕日映して 風薫る春

続きは
完成版で
お楽しみ下さい。